日本臨床発達心理士会神奈川支部

NEWS LETTER かながわ

2016年度第1号(通巻第19号)
2016年7月　神奈川支部　発行
連絡先 e-mail:jacdpkanagawa@gmail.com

巻 頭 言

神奈川支部事務局長　武部正明

「私たちに求められる専門性とは？」

「IQ79 の高校 3 年生 A（男性）について。どんな支援を考えますか？」と問われたら、皆さんは臨床発達心理士として、どうお考えになるでしょうか。きっとたくさんの視点とアイディアが出てくると思います。

近年国の施策として、子育て、不登校、虐待、発達障害、精神障害など乳幼児期から成人期まであらゆるライフステージにおいて支援の強化策が打ち出されています。それと相俟ってか、さまざまな支援技法・プログラムの有効性と推奨が盛んにインフォメーションされるようになりました。相談者目線あるいは普及啓発といった点では、専門機関へのアクセシビリティが向上しており、当事者や家族を孤立させないといった点で意義のあることと考えます。一方、相談ニーズが多様化し、相談者の状態像が多様化してきた情勢を踏まえると、需要と供給が本当にマッチしているのだろうか？と感じることも正直あります。

冒頭の事例Aを引き合いにすれば、(皆さんも同じようにお考えになられたと思いますが)「生育歴や原疾患の有無は？」「家族歴は？」「相談歴は？」「医学的診断の有無は？」「学校生活の状況は？」「保護者の主訴は？」「本人の主訴は？」など、支援の前に把握すべきポイントが多くあります。当然と言えば当然ですが、いくら有効な支援技法でも相談者と‘マッチ’していなければ有効にはならないですし弊害さえも起こり得ます。今後、正確な状態像とニーズを把握し、数あるメニューから適切なものへとガイダンスする役割がますます求められる時代になっていくと考えます。こうした役割を心理職が積極的に音頭取りしていくことも専門性の 1 つではないでしょうか。

平成 27 年 9 月、公認心理師法が成立しました。国家資格化されることで、今まで以上に心理職の有効性と実用性が問われていきます。ぜひ皆さんが主役となって積極的に専門性を発信していただけることを期待しております。私たちもそうした場をなるべく多く設けて参りたいと考えております。

本年 6 月の総会でご承認いただき、現役員体制は 2 年目となります。神奈川支部がより発展していくために、皆さまからの温かいご指導・ご意見をお待ちしております。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

神奈川支部総会報告

2016 年度の神奈川支部定期総会は、6 月 12 日（日）14：00～14：45 にユニコムプラザさがみはらにおいて開催されました。当日出席の 84 名に加え、69 名分の委任状により会員数 223 名の 3 分の 1 を超えたため、総会成立となりました。

総会に先立ち久保山支部長から挨拶がありました。公認心理師にかんする情報として、2018 年度から試験が開始されること、指定試験機関が日本心理研修センターに決定したことの報告がありました。指定試験機関の選定に伴い、日本臨床発達心理士会から 1000 万円を寄付したとの報告もありました。また、公認心理師発足後も臨床発達心理士会としては、発達的視点をもった心理支援の専門家として、資格の活動は継続していく方向とのことです。

総会では初めに議長の選出があり、推薦によって神奈川県立伊勢原養護学校の山田若男先生が議長に選出されました。

続いて、2015 年度の活動報告と会計報告がありました。会計報告では、役員改選に伴う事務局の引っ越し代や、研修資料の印刷を外部業者に委託するなど、一部当初の予算案から変更があり、支出が増えた項目があることが報告されました。

その後、役員の選出がありました。今年度は新たな役員の選出はありませんでしたが、これまで災害支援担当としてご活躍されてきた尾崎浩子先生が役員を退任されることになりました。また、『子の引渡しに関する協力候補者』については、昨年度に引き続き、三隅輝見子先生、内田賢子先生、金澤直樹先生がお引き受けいただいたとの報告がありました。

最後に 2016 年度の活動計画・予算案が提案され、承認されました。当面は郵送も併用しますが、今後は会員情報管理システム（SOLTI）にて情報発信が行われるため、各自確認を行い不都合のある場合は神奈川支部役員まで連絡を頂ければとのことでした。

昨年度大幅に役員が入れ替わり、新体制も 2 年目に入りました。今後の研修では、講演だけではなく様々な企画を実施していければと考えています。

今年度も臨床発達心理士会神奈川支部をよろしくお願いいたします。

(文責：須田恭平)

神奈川支部総会の様子

神奈川支部研修会報告

2016 年 6 月 12 日（日）に、第１回研修会をユニコムプラザさがみはらにおいて実施しました。

＜午前の部＞

講演会では、次のテーマで講師の先生をお招きし、お話をうかがいました。

講演

テーマ：障がいのある子どもとその家族への支援のあり方

講師：星山麻木氏

（明星大学教育学部教授、（社）こども家族早期発達支援学会会長）

前半の講義では、まず、オランダの保育園のスライドを使って、子どもは「自然の中で、異年齢で見守られて、群れて自由に遊ぶ」ことで発達・成長していくもので、大事なのは「一人ひとりの発達の違いに応じた環境と自然」であることが説明されました。環境の工夫として、一人ひとりの発達に応じた手作りの教材、一人ひとりの違いを生かした学びの場作りの大切さをわかりやすくお話ししていただきました。「子どもは、本来仲間と自然があれば自由に遊べるものであり、コンクリートの中に閉じ込めるから子どもが行動問題を起こす」という考え方で保育をしているということはとても印象に残りました。またオランダでは、以前はチャイルド・センタードアプローチが中心で、子ども自身を様々な職種(役割)の大人がどのように支援するかに焦点が当てられていましたが、現在ではファミリー・センタードアプローチに移行してきており、障がいのある子どもを持つ家族を各機関がどのようにネットワークを作り連携・支援していくかを大事にしたアプローチが中心になってきているとのことでした。日本の文化は「同じがいい」を大事にしてきた部分がありますが、発達支援には多様性の尊重が大切であり、そのことを保護者(家族)も保育士等の支援者も学び続けることが必要であること、また、学び続けることで孤立を防ぎ、ネットワーク作りと人材育成(サポーター・コーディネーター)にもつながることが話されました。

後半は、４～５人のグループワークを行いました。子どもの頃の遊び方を発表する形で自己紹介をした後、「各メンバーが協力して、各自の指を１本だけ使って、１枚の紙から紙飛行機を折り上げ、飛ばしてみる」等のワークをいくつか実施しました。各メンバーがそれぞれの強みを生かし、皆でコミュニケーションを取りながら進めていくことの大切さ、その際に自分の果たせた役割の振り返り（紙を抑えているだけでも大切な役割など)、皆で完成させられた時の達成感など体感することができ、とても有意義な３時間でした。

（文責：橋爪美津子）

講演会の様子

星山麻木氏

ワークショップの様子

＜午後の部＞

午後は分科会形式で、４つのテーマ別に実践報告をもとにした意見交換を行いました。

分科会：幼児期

テーマ…知的に遅れのない発達障害幼児の保護者支援プログラム
～児童発達支援事業における取り組み

話題提供：牛島智子氏（よこはま港南地域療育センター　ぴーす港南　園長）

56 名と多くの方に御参加いただきました。前半は牛島先生から勤務先の児童発達支援事業所で実践されている保護者支援プログラムについてご紹介いただきました。

牛島先生が話された保護者支援のポイントは次の 3 点です。1 点目は、親子で達成感を感じられるように療育場面の設定を工夫し、お子さんにとって必要な対応を言語化して保護者に伝えることです。2 点目は、就学に際して、学校で子どもに必要な支援を受けられるような選択ができるように保護者を後押しすること、また 3 点目は保護者自身が安心、安定して帰属感を持てるような居場所を作っていくことが大切とのことでした。

後半は牛島先生から 3 つのテーマを挙げていただき、グループで話し合いを行いました。最後に各グループから話し合いの内容を発表していただきましたが、どのグループでも活発な話し合いが行われ、様々な立場から話を聞くことで、参加者が改めて自分自身の仕事の役割について振り返るきっかけとなったようでした。　(文責：須田恭平)

分科会：幼児期の様子

牛島智子氏

分科会：学童期

テーマ…「ケース会議」を通した地域連携

話題提供：河村恵美氏（横浜市学校カウンセラー）

19 名の参加者があり、学校関係者以外に療育機関や相談機関等で児童の支援に関わる方の参加が多かったです。自己紹介の後、横浜市独自の学校カウンセラーとして、区役所と小中学校で相談等に携わる立場から、個別ケース検討会議に参加した事例について話題提供がありました。要保護児童に直接かかわる機関が集まって情報交換や具体的な支援の検討を行う中で、情報のつなぎ役、学校での心理的支援、アセスメントや支援プランへの臨床発達心理士的な視点の提供などの役割が期待されているということでした。午前中の講演でも連携の重要性が取り上げられていましたが、その現場に実際にかかわっている参加者から、コーディネーターや情報共有のツール、支援資源などについて質問や情報提供がありました。関係機関が顔を合わせて、できる支援を出し合い、ネットワークを作っていくことの大切さと、そのつなぎ手として臨床発達心理士が果たせる役割を考えさせられました。(文責：**佐藤朋実**)

分科会：学童期の様子

河村恵美氏

分科会：青年期

テーマ…障害者の企業就労（特例子会社）の取り組みについて

話題提供：市川洋子氏（日総ぴゅあ株式会社　T＆Mセンター長）

16 名の参加がありました。参加者は、学校や療育機関関係など成人期以前の時期を支援している人が大半でした。まず市川さんから、企業在籍型ジョブコーチという立場で障がい者が企業就労を継続していく際に現実起きている問題や、日々努力されていることなどを話題提供していただきました。それを受けて、参加者が自己紹介をしながら、現場の貴重な話を聞けたことへの感想をコメントしました。そのあと質疑応答に入りました。たくさんの有益な情報や意見交換がありましたが、就労を継続するためには周囲の理解を得られるような本人の努力や、苦手なことの克服も必要という話がありました。最後に、参加者全員が今日の話を聞いて自分が「明日からできること」をコメントして分科会を終了しました。それぞれのライフステージでの支援を行う際にも、成人になった時の姿を考えて支援することの重要性を再認識できた機会になりました。　（文責：尾崎浩子）

分科会：青年期の様子

市川洋子氏

分科会：成人期以降

テーマ…成人期の地域生活における相談支援とケアマネジメント

話題提供：小林しのぶ氏（社会福祉法人長尾福祉会　相談支援センターりぼん　相談支援専門員）

11 名の参加がありました。成人期では様々な生活状況があります。住まいの場は自宅やグループホーム、入所施設など、日中の生活の場も就労や活動センター、通所施設、自宅で過ごすなど様々です。いろいろな生活スタイルや環境があり一人ひとり異なった困り感やニーズがあります。生活環境の違った４名の方について、それぞれの支援の実際をお話しいただきました。直接的な支援の例や行政機関や保健所、医師などと横の連携を持った支援などの具体例が紹介されました。個々の事例の中で、手厚い支援により、いかに多くの機関との連携が可能であるかが示されました。様々な福祉サービス等を必要に応じてコーディネートすることによって関係者間で情報を共有しながら支援することの大切さが説かれました。参加者の方からの質問に対しては、チーム連携では相手の方々と丁寧に接し常に話しやすい関係性をつくる努力をすることの大切さや、障害支援区分の話や、障害更生年金や自立支援医療など制度利用についても教えていただきました。　（文責　矢島友子）

分科会：成人期以降の様子

小林しのぶ氏

神奈川支部研修会についてのアンケート結果

アンケート回収率 53%。
ご意見･ご感想は一部抜粋。

１．午前の研修（講演）について

講演：「障がいのある子どもと家族への支援のあり方」講師：星山麻木氏

＜ご意見・ご感想＞

・ ファミリー･センタードという考え方にとても共感しました。
・ 星山先生のお人柄が現れた熱いお話に胸を打たれました。先生が本気で人をサポートしていらしたからこそ、聴く人にこんなにも強く伝わるのだと感じました。
・ 具体的なエピソードをもとに大切なポイントを語っていただき、たいへん勉強になりました。
・ 親を孤立させないことの大切さ、コーディネーターの役割、支援者を育てる重要性など、すべてのお話に説得力がありました。自分にできるところから日々実践していきたいと思います。
・ グループワークが斬新でした。学生に戻った気持ちで楽しく学ぶことができました。

２．午後の分科会（支部会員による実践報告と意見交換）について

＜ご意見・ご感想＞

幼児期：知的に遅れのない発達障害幼児の保護者支援プログラムー児童発達支援事業所における取り組みー（牛島智子氏）

・ 幼児期に自己肯定感や他者への信頼感をきちんと育てていくことがその後の人生に大きく影響するということを改めて感じました。
・ いろいろな職種の方たちと意見交換ができました。今後もこうした話し合い、励まし合いの時間があるとうれしいです。

学童期：「ケース会議」を通した地域連携（河村恵美氏）

・ ケース会議を開く際のポイントを知ることができ、とても参考になりました。
・ 情報のつなぎ役がいることで問題がよい方向に展開することがわかり、アセスメントや支援プランの重要性を再認識することができました。
・ 家庭を支援することのできる地域をどのように作っていくのか、考えさせられました。

青年期：障害者の企業就労（特例子会社）の取り組みについて（市川洋子氏）

・ 特例子会社について具体的なお話を伺い、現状をよく理解できました。
・ 将来を見通した支援の大切さを強く感じました。教育の現場で働く皆さんに是非聞いていただきたい内容でした。
・ 参加された方たちそれぞれの立場の考え方がわかり、たいへん勉強になりました。

成人期以降：成人期の地域生活における相談支援とケアマネジメント（小林しのぶ氏）

・ とても丁寧できめ細かい実践報告を拝聴し、現実が目に浮かぶようでした。
・ 具体的でわかりやすく、役に立つ知識を得ることができました。
・ 学校ではなくさまざまな場で生きていくことになる成人期以降の障害者支援について改めて学ばせていただきました。素晴らしい実践ですね。

＊アンケート係より＊
たくさんのご意見やご感想、運営に関する励ましやご指摘、研修テーマや講師候補のご提案をありがとうございました。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

（文責：富田庸子）

職場紹介

木枝弘美（横浜市福祉保健センター）

横浜市は、１歳半健診を起点とした、障害児の早期発見・早期支援に長年先進的な役割を果たしてきました。その中心となるのが、子ども相談、親子教室といった、福祉保健センターが主催するさまざまな事業であり、臨床発達心理士をはじめとする心理職がその中核を担ってきました。

子ども相談は、１歳半および３歳健診で要支援となったお子さんとその親御さんを主な支援対象としています。しかし、集団に入ってから保育者の訴えにより、親御さんが希望して導入となったケースも多数あります。相談の場では、個別の発達評価をもとに親御さんに子どもの特性や今の発達像をわかりやすく伝え、適切な育児の方向性を伝えています。親御さんのニードを育てたうえで療育機関に紹介することも多くあります。（就学前までが対象）

親子教室は、センターの所内でおこなわれる、要支援の２歳児を対象とした集団指導事業です。区によって内容や回数に多少の差はありますが、おおむね 15 組程度の親子を対象に、週１回、3 か月程度の期間実施されます。保育者、心理職、保健師が指導にあたり、実際の集団保育場面において親御さんに具体的な助言を行っています。親御さんの支援者に対する信頼感を育て、将来の療育につなげることができればと願っています。また、支援者にとっても、集団場面における当該児の姿を知ることができ、今後の支援方針を見極めるための大きな指標となっています。

その他にも、区によって内容は様々ですが、要支援の子どもを持つ親御さんや幼稚園・保育園の保育者に対して、いろいろな支援事業を行っています。私が所属する港南区では、昨年度まで、区内の幼稚園・保育園に心理職が出張し、親や保育者を対象とした出前講座をおこなってきました。子どもの発達や特性に対する理解を広く伝えることができるほか、心理職にとっても、保育現場にふれて保育者と直にコミュニケーションできるというメリットがあり、大変有意義な事業であると思いました。

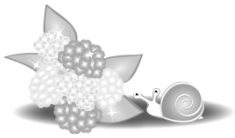
このような事業を通じ、長い積み重ねの中で、地域とのつながり、信頼関係を築くことができたことは、私にとって大きな財産だと感じています。

「職場紹介」大募集！

このコーナーで職場紹介をしてくださる方を募集しています。
神奈川支部に所属されている方であれば、掲載させていただきます。
医療、福祉、教育、司法などお互いを知り、効果的なネットワークを構築していくためにも、ぜひご協力をお願いします。

＜連絡先＞
神奈川支部 広報担当宛
e-mail：jacdpkanagawa@gmail.com

お知らせ



■　神奈川支部 2016 年度第２回研修会の予定

〇日時：2016 年 12 月 11 日（日）14：00～17：00（1 ポイント）（予定）

〇会　場：鎌倉女子大学（鎌倉市大船 6-1-3）　図書館棟１階　視聴覚ホール

〇内　容：「ネット依存症の現状と予防について」（仮題）

・講師…樋口　進氏（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター院長）

※ 詳細が決まりましたら神奈川支部ホームページ、SOLTI、郵送（神奈川支部会員のみ）にて、お知らせいたします。

日本臨床発達心理士会第12回全国大会が、下記の要領で開催されます。

会期	2016 年９月 10 日（土）～11 日（日）
会場	大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町 8-2-6）
大会準備委員会	日本臨床発達心理士会　大阪・和歌山支部

※　詳しくは、ホームページをご覧ください。(http://www.jacdp.jp/congress/)

〈編集後記〉

現役員体制２年目で行った、今年度１回目の研修会・総会のお知らせのニューズレター発行となりました。熊本の地震から始まり、18 歳から投票した参院選も終わり、公認心理師法にかかる動きも見逃せない今日この頃ですが、ニューズレターでも情報等もお伝えしていきますので、よろしくお願いいたします。

また、お気づきの点、ご意見・ご感想等ございましたら、アドレスにご連絡いただけると助かります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

夏日も続くようになりましたが、皆様ご自愛ください。

（広報担当　橋爪美津子・佐藤朋実）